

1月度の観察記録

カテゴリ : 2021年

_MD_POSTEDON投稿者: [Zz.admin](#) 掲載日: 2021-1-16

2021年1月度の観察記録です。

```
Untitled Page .auto-style1 { text-align: right; } var gaJsHost = (("https:"  
== document.location.protocol) ? "https://ssl." : "http://www.");  
document.write(unescape("%3Cscript src='" + gaJsHost + "google-analytics.com/ga.js'  
type='text/javascript'%3E%3C/script%3E")); var pageTracker =  
_gat._getTracker("UA-3205823-1"); pageTracker._initData(); pageTracker._trackPageview();
```

2021年?1月?10日(日) 9:30~12:10 作成: 田畑恭子 監修: 瀧川正子

参加者: 大人?7名 天気: 晴れ 新型コロナウイルスの感染状況が再び悪化して、今年最初の自然観察会は残念ながら中止せざるを得なくなりました。これは2021年1月の記録を残すことを目的として自然観察指導員と有識者数名で歩いて取った記録です。この冬3度目の寒波が到来していました。朝の最低気温は -2 で底冷えの感がありましたが、里山の家が開く頃にはすでに何組かの家族連れが公園を訪れていました。出発してすぐのところに**センダン**の木が2本あり、つけている実の色が木によって違うのが目につきました。センダンの実の皮を指で剥くと、ベタベタした果肉が現れました。その近くのスハウチクを観察すると1本の竹に穴が4つも開いていました。**タイワンタケクマバチ**があけた穴でした。そのほかには2つ以上の穴があいた竹は見当たらず、なぜその1本が選ばれたのかが不思議でした。





色の違うセンダンの実 タイワンタケクマバチが開けた穴 オタマジャクシ池には氷が張っていて、氷の厚さは8mmほどでした。毎年この季節の自然観察会で氷を観察しますが、今までの中で一番の厚さでした。池の端では霜柱も見ることができました。少し進むと実をたわわにつけたヌルデの木が見つかりました。



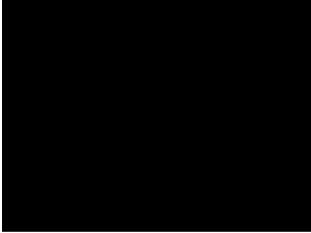
池に張った氷 霜柱 ヌルデの実 先月の観察会で観察した越冬中のウラギンシジミとクリオオアブラムシの卵を確認してから森の中に入ると、コゲラの巣穴があいた倒木がころがっていました。林床にはマンリョウやヤブコウジが赤い実をつけていました。ガマズミもわずかながら実を残していました。



コゲラの巣穴 マンリョウ ヤブコウジ
めたところでした。その甘い香りはマスク越しでも確認することができました。先月の自然観察会
では発見できなかったタテジマカミキリですが、畑の近くのカクレミノで越冬している姿を見るこ
とができました。そして同じ木の別の枝にはタテジマカミキリが出てきたときにあけたと思われる
穴が見つかりました。

畑にさしかかるとソシンロウバイの花がちょうど咲き始





ソシンロウバイ タテジマカミキリが開けた穴
タマカタカイガラムシがたくさんついているウ
メの木でアカホシテントウが越冬していました。樹皮の割れ目に7頭集まっているところもありまし
た。注意していないと見過ごしてしまうシンジュキノカワガの繭ですが、今回見つかったのは成虫
が出たあとの繭で、中を調べると空になった蛹と幼虫の抜け殻が入っていました。

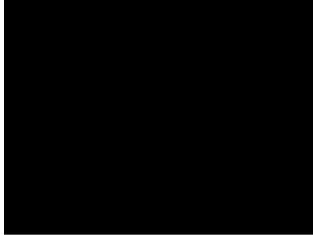




アカホシテントウ シンジユキノカワガの繭の抜け殻 カキノキの幹にしがみついたまま死んで
いるナガゴマフカミキリがいました。先月の自然観察会でもタテジマカミキリが同じような状態で
見つかりましたが、ボーマリア菌に侵されて命を落としたものでした。このあとこの日2頭目のタテ
ジマカミキリを観察しました。この日の1頭目も2頭目も頭部を下に向けてカクレミノにしがみつ
いていました。



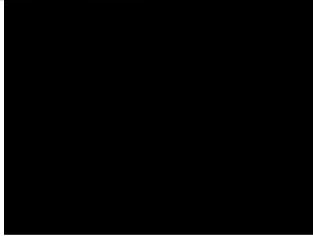
ナガゴマフカミキリ タテジマカミキリ 最近の自然観察会では時間が足りなくて滅多に行くこ
とのないエリアまで足を延ばしました。トウチク林を抜けるとカンチクがたくさん生えていました
。細い竹で独特の暗褐色をしています。その先のコブシのつぼみを観察すると、毛深い萼片で覆わ
れてスベスベした手触りでした。



カンチク コブシのつぼみ
ノキシノブも数多く生えていました。

弱った**地衣類**皮隠間なく覆っていました。また同じ木に





地衣類 ノキシノブの孢子囊 アラカシの木ではいろいろな昆虫の冬越しを確認することができました。重なった葉の間にできた古いクモの巣の中にはナミテントウが潜んでいました。また枯れ葉の塊が枝にひっかかった場所をのぞき込むとムラサキシジミが見つかりました。





アラカシ ナミテントウ ムラサキシジミ

枯れ葉が重なっているところをそっ

リバエの仲間がいました。頭から翅の先までの大きさが3mmほどしかありませんでした。

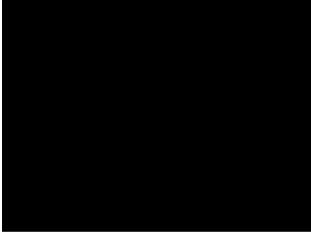


キモグリバエの仲間

倒木には種類

が傘の裏を見るとひだ状のものとスポンジ状のものというはっきりした違いがありました。





キノコの仲間 キノコの仲間 コケ樹覆がれているところをよく見ると胞子嚢が何本も伸びて赤く色づいているのがわかりました。スギの枝にはクモの卵嚢がついていました。大きさは2cmほどで、上部は円錐状、下の方は半球状になっていました。そのスギはもう雄花をつけていてつぼみは少し膨らんで見えました。花粉症の季節はすぐそこまで迫ってきているようです。





コケの孢子囊 クモの卵囊 スギの雄花

中道はどこもアベマキやコナラの落ち葉がたくさん積もっていました。アベマキの落ち葉を観察すると表と裏では色が違い、裏は表より白っぽいのがわかります。アベマキの葉は表には毛がなく、裏側は細かい毛で覆われているため色が違って見えるのです。またところどころで見られたイロハモミジは枝も冬芽も美しい赤色で、冬芽は陽の光で照らされツヤツヤと光っていました。スイカズラは初夏に可愛らしい花を咲かせて目を引きますが、常緑植物で冬は葉が残り、姿は目立たないものの中道沿いにたくさん生えていました。

中道はどこもアベマキやコナラの落ち葉がたくさん積も



アベマキの葉 イロハモミジの芽 スイカズラ ツバキの木がつぼみをつけていました。中には咲き始めている木もあり、中道沿いの斑入りのピンクのツバキはすでに咲き終わったものもありました。アオキは雌雄異株の植物で、この日花を観察したのは雌株でした。その近くではヤマノイモの実がつる状に連なっていました。

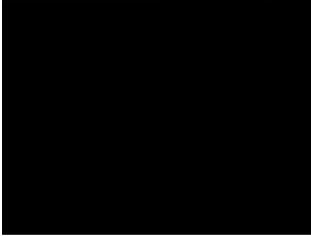


ツバキ アオキの雄花 ヤマノイモの実 つどいの丘のキリの木を見上げると高い枝にレモン型の果実が残っていました。手が届く場所にはムクノキの実が少し残っていました。里の道を通って戻る途中、スズコナリヒラの斑入りの葉の美しさを改めて見直しました。またニシキギは赤い実をまだたくさんつけていました。



ムクノキの実 スズコナリヒラ ニシキギ ジャノヒゲの実が熟していました。光沢のある青で、実の形は整った球形です。すぐそばで見られたノシランの実は楕円形で、色は緑でしたが、やがて熟すとこれもまた青くなるようです。また確認に行きたいと思います。





ジャノヒゲ ノシラン

最後にコウバイの木を観察しました。幹割材田サシガメの幼虫が集団で越冬していました。コウバイの花はまだほとんどがつぼみでしたが、わずかながら咲いているものもありました。





ヨコヅナサシガメの幼虫 コウバイ 愛知県ではこの記録会の4日後に2度目の緊急事態宣言が発出されました。医療現場の逼迫した状況も連日報道され、コロナ禍はなかなか終息しそうにありません。でもこの日平和公園を歩き、これから先の私たちの暮らしがどう変化するにせよ、森の自然はいつもの姿でそこにあることを確認することができました。この豊かな自然の中での発見や感動を参加者のみなさんと笑顔で共有できる日が戻って来ることを願うばかりです。

平和公園での観察項目：センダンの実、鳥のフン、スホウチク、スホウチクにタイワンタケクマバチが開けた穴、オタマジャクシ池の氷、霜柱、ヌルデの実、ウラギンシジミ、クリオオアブラムシ、コゲラの巣穴、マンリョウ、ヤブコウジ、ガマズミの実、ソシンロウバイ、タテジマカミキリ、タテジマカミキリが開けた穴、ガマの穂で遊ぶ子ども、アカホシテントウ、タマカタカイガラムシ、マユミ、ナンテン、ボーマリア菌に侵されたナガゴマフカミキリ、ツバキ、シンジュキノカワガの繭、カラタチ、アオツツラフジ、カンチク、コブシのつぼみ、地衣類、ノキシノブ、トウチク、アラカシ、ナミテントウ、ムラサキシジミ、キモグリバエの仲間、イロハモミジの実、カワラタケの仲間、コケの胞子嚢、アラカシのドングリ、ナミテントウの蛹、クモの卵嚢、スギの雄花、アベマキの葉、リュウゼツラン、ジャノヒゲ、クモの脱皮殻、スイカズラ、モチツツジ、オオハナワラビ、アオキの雄花、死んだハチ、ヤマノイモの実、トタテグモ？の巣、ムクノキの実、フユノハナワラビ、アオスジアゲハの蛹の抜け殻、スズコナリヒラタケ、ニシキギ、ガガイモの実、ノシラン、ヨコヅナサシガメの幼虫、コウバイ？